共生委員会ニュース

ともしび

2021年5月　第1号

共生・探求学習委員会



【スクールモットー「地の塩、世の光」】

昨年度のグローバルウィークⅡポスター

共生・探究学習委員会は平和や共生に関わる活動、修学旅行などを担当する教員の委員会です。原爆投下の地、長崎を訪れる修学旅行だけでなく、高等部の3年間の生活を通じ、同じ社会に共に暮らす様々な人々との　関わりに目を向け、平和や共生の問題に向き合っていきましょう。

高等部の平和共生教育

修学旅行、各教科の授業など3年間を通して平和と共生について学んでいきます。平和共生 LogBook に一人ひとり違った足跡を残しながら、考えていきましょう。

3年間の流れ（20年度）

1年生　《平和共生論文》テーマ選定

【**聖書**】杉原千畝の生き方を通して　　【**国語総合**】遠藤周作とアウシュビッツ

【**英語**】Playing the Enemy（人種差別政策アパルトヘイト撤廃後の南ア ラグビーワールドカップ）

【**生物**】放射線被曝の影響

2年生　《平和共生論文》アウトライン作成・執筆

【聖書】内村鑑三の生き方を通して　　【現代文 B】長崎の原爆に関する作品

【日本史 A(現代史)】太平洋戦争、アウシュビッツ収容所、原爆の歴史、ベトナム戦争

【現代社会】日本国憲法第9条、核兵器　　【英語】Irena Sendler の人生を通して

【物理】原子力と核兵器　　【修学旅行】被爆の歴史、キリシタン弾圧の歴史

3年生　《平和共生論文》完成・読み合い等

【聖書】M・L・King Jr 牧師の生き方を通して　【現代文】共生に関するテーマ

【英語】共生に関するテーマ

◆その他、グローバルウィーク、自主学習グループの活動など

平和・共生に関する活動に興味がある人は、藤本、藤井、武藤、吉成まで声をかけてください。

平和共生論文代表者発表会

平和共生論文の執筆に関して具体的なイメージを持ってもらうため、69 期のクラス代表者6名による論文発表会を開催しました。

70 期生（現 3 年生）は論文執筆を間近に控えた2月、71 期生（現 2 年生）はテーマを決める直前の3月という大事な時期の開催だったため、大いに参考になったと思います。
69 期の皆さん、ご協力ありがとうございました。

◎2021年 2 月18日 論文発表会（70期対象）　PS 講堂

①S.F.「アパレル産業におけるフェアトレードー重要視される消費者行動ー」

②J.T.「児童虐待ー子の権利・親の権利ー」

③H.H.「異文化の中で考える日本文化
ージャポニスムの受容の背景から探る異文化理解のあり方ー」

※放課後、大教室にて論文個別相談会を実施





◎2021年3月15日　論文発表会（71期対象）　PS 講堂

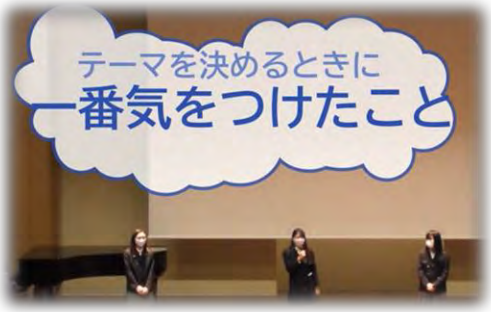
①S.Y.「外国につながる子どもと共に生きる」

②T.A.「外見至上主義と私達～容姿差別・ルッキズムについて～」

③S.M.「理想の最期を迎えるために～アドバンス・ケア・プランニングから考える～」

※発表後、代表生徒と藤井先生によるトークセッション





合同自主学習グループ

昨年度は新型コロナウイルスの影響により、東ティモールやフィリピン、宮古市への訪問をはじめ、様々な取り組みが中止を余儀なくされました。そんな中、共生活動に関心が高い生徒による「合同自主学習グループ」の立ち上げが推進されています。また、広報用ホワイトボードが2階エントランスに新設されています。今回はその中心となっている、ブルーペコ代表・T君に寄稿してもらいました。

ブルーペコの活動について

T.C.

皆さんこんにちは。ブルーペコは 56 期生の先輩方が英語の授業でルワンダ紛争を学んだことをきっかけに立ち上げられた有志活動団体です。

私たちの団体には三つの大きな特徴があります。一つ目は東ティモールです。皆さんは東ティモールという国をご存知ですか？東ティモールは 2002 年に独立をした東南アジアの国であり、コーヒー産業が活発で自然豊かな国です。一方沢山の社会問題を抱えている国でもあります。私たちは文化祭でのドリップコーヒーの販売やスタディーツアーを通じて、東ティモールと深い関わりを築いてきました。スタディーツアーでは、実際に現地に渡航をして、コーヒー豆農家さんの元で栽培や焙煎を体験したり現地の方と交流したりすることで、フェアトレードや貧困等の様々な問題を学んでいきます。昨年度はコロナの影響もあり渡航することはできませんでしたが、オンライン勉強会や渡航した先輩方の講演を開くことで継続して東ティモールを知る機会を作ってきました。

二つ目は「Global Issues」です。私たちは東ティモールだけではなく、その学びから派生させた多くの地球的課題、Global Issues についても学習をしています。環境問題や難民問題を自分とは離れた存在だと認識してしまう方も多いと思います。しかしそれらの諸問題を日本の問題に置き換えることで、見えてくる問題や解決策があります。普段知る機会の少ない世界の問題を知ることは、とても興味深く貴重な経験であると思います。

三つ目は生徒の自主性です。ブルーペコでは生徒が中心となって活動をしています。週一回の勉強会やイベントでは生徒が企画運営を行い、多くの生徒同士で楽しみながら学びを深めています。一昨年に行った苗プロジェクトでは、全校生徒を巻き込んで、東ティモールにコーヒーの苗を送るイベントを実施しました。

私たちは学びを実践していくことも大切にしています。今年度の活動理念は「東ティモールで国際問題を学ぶ」です。東ティモールで起こっていることは世界で広がる社会問題に通じていることであり、その学びを様々な国際問題を学ぶ出発点とすることでより深く学ぶことができます。現在はコロナ禍で活動も制限されていますが、昼の 10 分間を使ったミニ勉強会を開催しています。ブルーペコは誰もが気軽に楽しく学び、世界と繋がれる場所です。これからもコロナに負けず活発に活動をしていきたいと思います。



SGH ネットワークについて

青山学院高等部は 2015年度からの 5 年間、文部科学省よりスーパーグローバル・ハイスクールの指定を受けました。その期間、建学の精神を生かし、様々な地域で起こる問題を弱者目線で考えて共生社会の実現を目指す、サーバントリーダー育成のための試みを行ってきました。

一度、プログラムを終えた SGH でしたが、各 SGH 校の持つ学びの特長を繋ぎ合わせて新しい探究型プログラムを作り出すよう、21 年度に SGH ネットワークへの参加の呼びかけがおこなわれました。この度、高等部もそのメンバーとなることが承認され、今まで培ってきたノウハウを元に、みなさんとともに新しい学びの文化を作って行くことができるようになりました。社会の問題に主体的にかかわろうとする姿勢を持って、学びの新しい領域に進んで行きましょう。

宮古訪問プログラム関連イベント

繋（KIZUNA）～高等部と宮古をつなぐ～　開催！

去る5月16日（月）、「宮古訪問プログラム」に参加した大学生を中心としたボランティア団体「MF3.11」の協力を得て、高等部と岩手県宮古市のつながりを考えるイベントが開かれました。「宮古市町おこし協力隊」の吉浜氏による講演やディスカッション、クイズ大会などといった催しに、20 名の高等部生が集まりました。昨年実施できなかった「宮古訪問プログラム」が無事実施できることを祈りつつ、それぞれが今後のさまざまな活動に繋げていってほしいと思います。

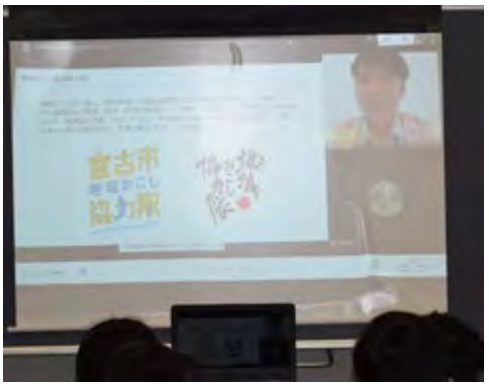
《生徒の声》

「復興とは何かという話し合いでそれぞれの考える復興やそのあり方の違いに驚いた。被災地の今をもっと詳しく知りたいと思った」

「クイズで楽しく宮古について知ることができ、meet で深く現地の話を聞けて、その後のディベートで復興とは何かについて色々な人と意見を交換し、考えられたのは良い経験になったと思う。」



クイズ大会の様子



吉浜氏の講演